

たけとりものがたり
竹取物語

むかし ところ す
昔、ある所におじいさんとおばあさんが住んでいました。おじいさんは
やま たけ と き もの つく う
山から竹を取って来て、いろいろな物を作って、売っていました。

ひ ふしぎ ひかり だ たけ み き
ある日、おじいさんは不思議な光を出している竹を見つけて切りました。
なか ちい おんな こ こども
中には小さな、かわいい女の子がいました。子供がいないおじいさんとお
ばあさんはとても喜んで、女の子に「かぐや姫」という名前をつけて、大切
そだ ひめ おお
に育てました。かぐや姫はどんどん大きくなって、とてもきれいになりました。
た。

うつく ひめ き おとこ けっこん もう こ き
美しいかぐや姫のことを聞いて、男たちが結婚を申し込みに来ました。
ひめ けっこん ひめ おとこ
「どうぞ、かぐや姫と結婚させてください。」おじいさんはかぐや姫に男た
きも つた ひめ けっこん い
ちの気持ちを伝えましたが、かぐや姫は結婚したくないと言いました。

ごにん おとこ ねが もの さが
しかし、5人の男があきらめなかったので、「わたしがお願いした物を探し
ひと けっこん い おとこ とお くに い
てきた人と結婚します」と言って、男たちを遠い国へ行かせました。かぐ
ひめ おとこ たの もの めずら さが たいへん
や姫が男たちに頼んだ物はとても珍しくて、探すのが大変でした。

ひとり ほとけ いし はち さが い ひとり ひがし うみ
一人はインドへ仏の石の鉢を探しに行きました。一人は東の海にある
やま い ほうせき き えだ と こ
山へ行って、宝石でできた木の枝を取って来なければなりませんでした。

ひとり ぜったい も かわ きもの さが ちゅうごく い ひとり
一人は絶対に燃えないねずみの皮の着物を探しに中国へ行きました。一人

りゅう くび たま ひとり も めずら かい と こ
は 竜の首の玉を、一人はつばめが持っている 珍しい貝を取って来なければ

さんねんす たの もの も
なりません。しかし、3年過ぎても、だれも頼んだ物を持ってくるこ

むり びょうき おとこ し
とができません。無理なことをして、病気になった男や死んでしま

おとこ
った男もいました。

てんのう ひめ す つま おも なんかい てがみ
天皇もかぐや姫が好きになり、妻にしたいと思いました。何回も手紙で

きも つた い
気持ちを伝えましたが、「はい」と言わせることはできませんでした。

さんねん す なつ ひめ まいばんつき み な
そして、また3年が過ぎて、夏になりました。かぐや姫は毎晩月を見て泣
くようになりました。

ひめ
「かぐや姫、どうしたの？」

せかい もの つき せかい き つぎ
「わたしはこの世界の者ではありません。月の世界から来たのです。次の

まんげつ ばん つき かえ かな
満月の晩に月へ帰らなければなりません。それで、とても悲しいのです。」

てんのう ひめ かえ
びっくりしたおじいさんは天皇に「かぐや姫を帰らせないでください」と

ねが まんげつ よる てんのう へいたい いえ まも
お願いしました。満月の夜、天皇はたくさんの兵隊におじいさんの家を守

よなか いえ まわ ふしぎ ひかり
らせました。しかし、夜中に家の周りは不思議な光でいっぱいになって、

へいたい なに み つき くるま むか き
兵隊たちは何も見えなくなりました。月から車が迎えに来たのです。かぐ

ひめ の つき くるま そら と い
や姫が乗った月の車は空を飛んで行きました。

ひめ かえ おく もの
ところで、かぐや姫は帰るときに、おじいさんたちに贈り物をしました。

ふし くすり かな
それは「不死の薬」でした。しかし、おじいさんとおばあさんはとても悲し

くすり の し てんのう ひめ せかい
んで、薬を飲まないで死んでしまいました。天皇はかぐや姫がいない世界で

い いみ おも たか やま うえ くすり や
生きていても、意味がないと思って、高い山の上で薬を焼かせました。そ

やま ふし やま ふじ やま ふじさん
れから、その山は「不死の山」から「富士の山」、そして、「富士山」という

なまえ
名前になったのです。